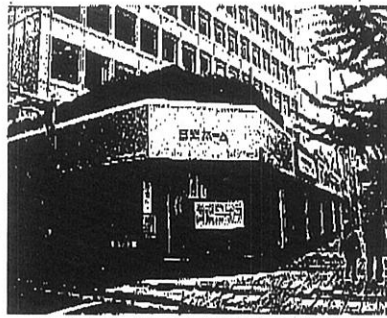


県と6市町、物販・カフェ…



三重県などが大規模な情報発信拠点を開ける名古屋市内のビル

三重丸ごと名古屋で発信

来月、名駅地区に情報拠点

三重県などは12月、名古屋市内に大規模な情報発信・営業拠点を開く。県産品を扱う物販スペースのほか、カフェや旅行案内カウンターも設ける。旅行商品の企画・営業を担う機能も備える。三重県は伊勢神宮などの人気観光資源や松阪牛をはじめとする全国ブランドを持つ一方、県として存在感が乏しいとの指摘が多い。実質的に初のアンテナショップとなる新拠点をテコに県の魅力を発信する。

旅行案内窓口も併設

三重県と同県松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、熊野市の6市町、三重県観光連盟で構成する「三重の観光営業拠点運営協議会」が事業主体となり、三重交通子会社の観光販売システムズ(名古屋市中区)に運営業務を委託する。これまで三重県はアンテナショップがなく、県産品や観光の営業強化が課題だった。鈴木英敬知事は東京と名古屋でのアンテナショップ開設を公

約に掲げている。

施設名は「プロダクトショップ・桜通りカフェ」

で、12月19日に開設する。

名古屋駅に近く桜通に面した名古屋三交ビルの1階に、約230平方メートルのスペースを確保した。県産品を使ったメニューを出すカフェや、イトインスペースを併設した物販エリア、スタッフが常駐する旅行案内カウンターなどを設ける。

工品、スイーツ、飲料などを置く。県産の野菜や果物を扱う「マルシェ」も設けるが、肉や魚介類は扱わない方針だ。通りに面したオープンスペースもカフェや物販で利用する見通し。カフェでは

外国人向けのコールセンターも併設。英中韓の三方国語で、三重県の観光に関する電話での問い合わせに応じる。

同じビルの9階にはブランドショップを盛り込み、遊覧船などの事業者を巻き込んで、市町の要望にあわせた旅行商品を企画して旅行会社に売り込む。また、県産品の販売戦略の立案も一部担う見通しだ。

三重県は12月15日まで期間限定で東京郊内のカフェ2店を使い、県産品を使ったメニューの提供や観光PRをマーケティング調査を兼ねて進めている。結果を踏まえ、東京でのアンテナショップの開設場所や営業形態について検討する。

日本経済新聞

H23.11.29 (39)